

敵基地攻撃能力「検討」

首相、自衛隊観閲式で訓示

岸田文雄首相は27日、陸上自衛隊朝霞駐屯地（東京都練馬区など）で行われた自衛隊観閲式で訓示しました。国家安全保障戦略などの改定に向け、「いわゆる敵基地攻撃能力の保有も含めてあらゆる選択肢を排除せず検討し、必要な防衛力を強化していく」と述べ、憲法違反の敵基地攻撃能力の保有を含む大軍拡を強調しました。

首相は北朝鮮による弾道ミサイル発射や、極超音速防空兵器、変則軌道のミサイルなどについて、「既過」することはできない」と指摘。中国については「透明性を欠いたまま軍事力を強化するとともに、一方的な現状変更の試みを継続している」と非難しました。

岸田首相が掲げる

「新しい資本主義」に触れた上で、「経済成

長は必要な防衛力を備え、わが国の平和と安

定を守り抜いていくためにも重要な力となる」と強調。軍拡のために経済成長が重要との認識を示しました。

また、エチオピア情勢の情報収集のため、観閲式は陸海空の各

自衛隊が毎年持ち回りで開催しており、今年は陸自が担当しました。外務省と防衛省からなる調査チームをジアチに派遣したことを明らかにしました。

た。例年より規模を縮

小し、隊員約800人が参加。観閲行進も行いました。

はその後、隊員との懇

談や装備品を視察。機

動戦車や戦車の試乗を

しました。